

課題に取り組むことが難しいE男（小1：知的障害特別支援学級）

実態把握

【特別支援学級担任の見取り】

a. 相手を意識して話を聞くことが難しく、体幹が定まらず体がふらふらしている。
b. 集中して活動できる時間は5～6分である。集中が切れると姿勢が崩れて机にもたれかかってしまう。“できない”と感じると、固まったり注意がそれたりする。
c. 注意されると固まって泣き、気持ちの切り替えに時間がかかる。
d. 多弁であるが、言葉を正確には理解していない。
e. 読めるひらがなが6個で、音声と文字が一致しない。

【就学前検査より】

f. 総合的に2～3歳の遅れが見られる。

【保護者からの情報】

g. 実母からの虐待を受け、5歳より里親の元で生活している。

【諸検査の結果】

h. SM社会能力検査（社会生活年齢4歳7月、社会生活指数74）
[身辺自立<5:11>、移動<2:11>、作業<3:10>、意思交換<3:9>、集団参加<4:2>、自己統制<6:4>]
i. 新版K式発達検査（発達年齢4歳2月、発達指数66）
[認知・適応<71 4:4>、言語・社会<59 5:4>]

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	b,c,g	h,i	a,h,f	a	e,h,i,f

【3年後の姿】

授業において、与えられた課題に一定時間一人で取り組むことができる。

指導すべき課題

興味・関心の幅が狭く、注意や意識がそれてしまい話を聞くことが難しい。また認知の弱さから「できない」「わからない」や注意を受けると固まってしまい動作が静止し気持ちの切り替えに時間がかかる。そこで、興味のある活動を通して「できた」実感や最後まで取り組めた達成感をつみあげることで苦手な課題でも向き合ったり、集中して最後まで取り組んだりすることを中心課題とした。そのためにも、安定した姿勢の保持と読める文字の獲得と言葉の理解が重要であると考えた。

長期目標

生活科の授業において、与えられた課題に一人で15分間取り組むことができる。

自立活動指導内容

項目リストアップ

心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き
(1)情緒の安定 苦手な活動や場面でも固まらず安定した気持ちでいる (3)困難を改善・克服する意欲 苦手な活動や場面でも固まらず活動に参加しようとする意欲	(1)他者との関わり方の基礎 周りの人との関わりを広げる (3)自己の理解と行動の調整 苦手な課題を最後まであきらめずに取り組む	(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 言葉と文字を関連づけて文字の獲得	(1)姿勢と運動・動作の基本技能 適度な緊張状態での姿勢保持する (3)日常生活に必要な基本動作 活動の際、手元を注視する

指導内容

本人が興味をもち、積極的に活動に乗ることができるゲーム的な要素を取り入れた操作する学習活動を通して課題に向き合う時間を伸ばしていく。	語彙の獲得や文字の習得・定着を図るため、見聞きしたゲーム形式で学習の活動を取り入れる。	集中力向上のため、安定した椅子座位姿勢を実感できるように座位教具を工夫する。 焦点を合わせる力及び注視力、追視力を高める。
--	---	--

短期目標 (自立活動)	・特別支援学級において、教師のかかわりがなくても、与えられた課題に15分間取り組むことができる。 【心(1)(3), 人(1)(3)】	・通常の学級の友達の名前に関連するひらがなを覚えることができる。 【環(5)】	・安定した椅子座位姿勢で学習に取り組むことができる。【身(1)(3)】	個別目標 (各教科等)	・生活科の授業で、一人で黒板の文字をノートに書き写すことができる。(生活科)
指導の手立て (自立活動)	・課題に向き合う力（指示されたことを遂行しようとする姿勢）の獲得を目指し、指示（ルール）を聞いて理解し、その通りに身体をコントロールする力（だるまさんが転んだ、椅子取りゲーム、太鼓のリズムに合わせて動く）等の動的活動を取り入れる。	・語彙の獲得を目指し、読み聞かせ、しりとり、なぞなぞ、スピーチ（質問する）等を行う。 ・ひらがな文字の読み書きの習得を目指し、ビジョントレーニング、パズル、まちがい探し、フラッシュカード、文字探し、マッチングカード等を用いて音と文字のマッチング等を行う。	・集中力やボディバランスの向上を目指し、感覚を統合して行う活動、背もたれがない椅子の活用（座面に滑り止めシートを敷く）、体幹を鍛えるためのバランスボールの活用（静と動の感覚を体験）等を行う。 ・姿勢保持を目指し、テニスボールを半分に切ったものを土ふまずで踏む。 ・手指の巧緻性・運筆力を高めるために、線なぞり、迷路、点つなぎ、文字のなぞり書き等を行う。	指導の手立て (各教科等)	・見通しがもてるよう、活動内容を視覚化して提示する。 ・「〇〇個お話しします」などの言葉かけや注目を促す。 ・今何をするのかが分かるよう簡単なことばで簡潔に具体的な指示を出す。
指導の実践	(次ページ学習指導案参照)				指導の実践
評価	<通常の学級での様子> ・2月末現在、ひらがな6文字から40文字を獲得した。 ・生活科の授業では、板書をノートに書く・写す際、少ない量であれば、他の児童に遅れることなくできるようになった。 ・文字を書く、写す等の単純な作業であれば、ある程度自力でできるようになってきているが、指示を聞き、考え、書く等の一連の活動については、未だ困難である。 <自立活動の様子> ・特別支援学級では、一人で集中して学習に取り組める時間がおよそ20分以上、指導者との関わりがあれば、一単位時間集中力が持続するようになった。				
次計画へ反映	・カタカナ、漢字、数字など、文字の読み書きを習得する。 ・集中できる時間をさらに延ばす。 ・指示を聞き、考え、書くという一連の活動が自力でできるようにする。				

1 題材名 みみとめとてはなかよしさん

2 題材の個別目標

- ・目と手の協応動作を高める活動を通して、「見て聞いて、理解し、活動する」力や集中力を高めることができる。【環(5)、身(3)】

3 指導計画 (22 時間扱い)

月	時間数	学習内容・活動	評価
4 5 6	11	「キョロキョロじーっでやってみよう」 (1)パズルやトランプなどを使って形を弁別するゲームをする。 (2)体を使った体操や、ボールや縄などを使った運動をする。	・指示した形やトランプを注視して、「はじめましょう」の合図を聞いてから選んで取ったり、指でさしたりして見分けることができたか。 ・指示や手本とまったく同じように動かすことができたか。 ・「はじめましょう」の合図で素早く体を動かすことができたか。
7 9 10	11 (本時) 10/11	「えんぴつさんもいっしょにどうぞ」 (1)線なぞりや迷路、点つなぎなど鉛筆を使った活動をする。 (2)文字を使って仲間さがしや間違い探しなどの活動をする。	・線から目を離したり見失ったりせず、また角や直線などを書くことができたか。 ・正しく、素早く識別することができたか。

4 本時の個別目標

- ・一連の学習課題（各5分～10分間）を説明通りに一人で活動することができる。【環(5)、身(3)】

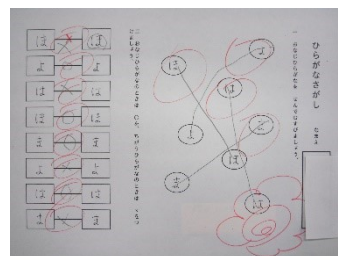
5 準備物・資料 プリント(線なぞり,迷路,点つなぎ,同じ・違う,ひらがな練習), 五十音表, 友達カード, ひらがな文字カード, ひらがな鏡文字カード, ひらがな間違いカード, 虫眼鏡

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)
1 本時の課題を確認する。 ばくはめいたんてい！ ～よくみてみつけよう！～	・今までの学習を振り返り、頑張ってきたことを思い起こさせながら称賛することによって、本時への意欲付けにつなげる。 ・学習内容をホワイトボードに提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
2 姿勢を確認する。	・自ら姿勢を整えることができるように“ピン・ペタ・グー・そぉっ”の合い言葉と正しい姿勢のイラストを提示する。
3 ウォーミングアップのプリントに取り組む。(10 分)	・プリントを見せて、三種類のプリントを行うことを伝える。 ・約束表を提示し、項目をさしてジェスチャーを交えて、約束事の確認をする。



間) (1)線なぞり (2)迷路 (3)点つなぎ (五十音) 【休憩タイム】 4 友達フラッシュカードをする。(5分間) 5 正しいひらがなを見つける。(10分間) (1)「ま」 (2)「よ」 (3)「は」 (4)「ほ」 【休憩タイム】 6 各プリントに取り組む。(10分間) (1)同じ・違う (2)ひらがな練習 7 本時の活動を振り返る。 (1)頑張れたことを発表する。 (2)次時の活動を知る。	<約束>①教師の「はじめましょう。」の合図で始まる。 ②黙って取り組む。 ③“はみださない”，“ぶつからない”，“まっすぐな線で”に気をつけて取り組む。 ④終わったら「終わりました。」と言い，鉛筆を置いて待つ。 ・安心感をもって取り組めるように，点つなぎではホワイトボードに五十音表を提示し，ヒントとして活用できるようにする。 ・良くできている部分を直接さしたり取り上げたりして，具体的に称賛をする。 ◎ 約束を守って取り組んでいる。(観察) ・気分転換を図るために，深呼吸を促したり，頭や腕をクルクル回すことを促したりする。 ・答えに詰まった際には，思い出せるように教師が名字の頭文字を1～2文字を発音し気づけるように支援する。 ・答えられないまたは間違った際には，教師が正しい名前を発音し，復唱することで理解を促す。 ・虫眼鏡を取り出しながら「さあ，いよいよ名探偵の出番だよ。この中で〇〇さんの「ま」はどれかな？」等発問し，楽しい気持ちで学習に取り組めるように場を盛り上げる。 ・間違った場合には「おいしい！確かに似てるね，でもここが違うね。う～ん，どれだろうねえ」等言葉かけをし，もう一度挑戦しようという気持ちを引き出す。 ・正しく選択できたときには，「さすが名探偵だね！」等で称賛し，「じゃあ「は」はどれかな？難しいねえ。」等，意欲が持続できるように投げかける。 ・活動の取組を賞賛し，気分転換を促す。 ◎何をすればいいか自分で考えて，深呼吸や，頭や腕をクルクル回すことができている。(観察) ・プリントのやり方の説明をよく聞くよう言葉をかける。 ・最初の一問を一緒にを行い，説明を正しく理解できているか確かめる。 ・正しく理解できていない場合には，説明をもう一度繰り返し，正しいやり方をやってみせる。 ・プリントをするときの約束を再度確認し，励ますとともに集中を促す。 ◎ 説明・指示通りに活動に取り組んでいる。(観察・プリント) ・児童が本時に行ったプリントやホワイトボードを見せながら，本時に行ったことを具体的に振り返り，頑張ったことを想起させやすくする。 ・「一番頑張ったことか楽しかったこと」について問いかけ，共感する。また，約束や指示がよく守れた場面を想起させ，称賛する。 ・次時の活動について，学習への期待感が高まるように使用する教材を提示する。
--	---



聞きもらしがあり活動に乗れないF子（小3：知的障害特別支援学級）

実態把握

【特別支援学級担任の見取り】

- a. 苦手な活動があると黙り込み、無表情になって固まり、泣いてしまう。
- b. 興味関心の幅が狭く、注意が散漫になりがちで、集中して話を聞くことが苦手である。

【交流学級担任からの情報】

- c. 通常の学級での一斉指示では、1回で聞き取ることが難しく、周りの様子を見ながら指示の確認を何度も繰り返す。
- d. 知っている子との活動では、活発に活動ができるが、集団になると周りの勢いにのまれ、黙ってしまう。
- e. グループ活動で、自分の考えを話すことができない。
- f. 自然活動など理科的なことに興味がある。

【保護者からの情報】

- g. 注意されると黙り込み、固まってしまう。頑固である。
- h. 整理整頓が出来ない。物をなくしやすい。宿題をやらない。

【WISC-IV所見より】

- i. 言語理解、知覚推理、作業記憶、処理速度のすべてにおいて低い。表現する力、記憶を留めておく力、実行する力が特に弱い。
- j. 視覚情報をヒントに考えることは比較的に良好である。
- k. 生活経験から自己選択、自己決定力が弱い。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	a,d,f	d,e	b,c,i,j		a,b,d,e,i,k
【3年後の姿】 ・全体での指示を受け、これまでの経験を生かし、活動に見通しをもって自分から課題に取り組むことができる。 ・簡単な内容であるが、自分の意見を集団の中で伝えることができる。					

指導すべき課題

意識して見ること、聞くことなど、物事に意識を向ける力をつけることを中心課題とした。そのためにも、自分一人で「できた」という成功体験の積み重ねから自信をもたせ、意欲をもって活動に参加できること、また、見通しをもつことで不安の軽減を図ることが重要である。

長期目標

通常の学級における理科の授業で一斉指導による説明後、個別の言葉かけがなくても、課題に取り組むことができる。

自立活動指導内容

項目リストアップ	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1)情緒の安定 やることが分からなくなっても気持ちを安定させる (3)困難を改善・克服する意欲 指示を聞き逃しても固まらず活動に参加しようとする意欲をもつ。	(1)他者との関わりの基礎 友達からの誘いを受け入れる (3)自己の理解と行動の調整 指示を聞き逃しても、周りをみて参加する。	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握 その場の雰囲気を知覚する。	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行 活動の際、手元を注視する。	(2)言語の受容と表出 相手の意図を受け止め、自分の意見を表出する。
指導内容	お世話係や清掃リーダーなど、機会を意図的に作り、自分のよさに気付くようにしたり、自信がもてるように励ましたりして、活動への意欲を促す。				
	見聞きしたものをイメージする思考活動（記憶する、考える、選択する、表現する等）を通して、学習に向き合う集中力や持続力を高めるようにする。		グループ活動で会話に参加できるよう、自分の考えや気持ちを言葉で表現できるようにする。		

短期目標 (自立活動)	・自分ができる役割や活動を決め、できたら自己評価し、次の役割や活動に移すことができる。【心(1), 人(3)】	・先生の活動の指示（板書する, 挙手する, 話し合う, 学習準備をする等）を聞いて, 周りの友達の様子を見て, みんなと同じように行動することができる。【心(3), 人(3), 身(5)】	・小さな集団の中で, 自分の意見を1日3回は促されなくても発言できる。 【心(1), 人(1)(3), コ(2)】	個別目標 (各教科等) ・理科の授業で, 個別の言葉かけがなくても先生の指示を聞いて友達と同じように活動することができる。(理科)
指導の手立て (自立活動)	・自分ができる課題から取り組み決めた回数取り組み, 達成できたら視覚的支援と言葉で評価する。 ・目標とする行動が見られたら, その場で即時評価する。 ・目標が達成したら, 次の目標を確認し, 目標とする行動が出やすいように環境を調整する。	・言葉で伝えることの意識付けとして, 朝の会（通常の学級）で聞いた今日の予定について, 支援学級の担任に伝える。 ・指示内容の理解確認のため, 教師側から聞き返しを取り入れる。 ・聞く力を高めるために, 読み聞かせ, しりとり, なぞなぞ, 3ヒントクイズ, 三択クイズなどを行う。 ・注視力や集中力を高めるために, リレー読みなどを行う。	・人前で話すことに自信がもてるようにスピーチタイムを取り入れる。	指導の手立て (各教科等) ・見通しがもてるよう, 活動内容を視覚化してタイムプロットカードを活用する。 ・指示や発問を出す前に, 全体が注目できる合図を行う。 ・指示は短く簡単な言葉で視覚情報を活用する。 ・授業に見通しがもてるように, 予習を宿題として学習ポイントを示す。
指導の実践	(次ページ学習指導案参照)			指導の実践
評価	<通常の学級での様子> ・人前で話すことに徐々に慣れて, 理科の授業のグループ活動でのつぶやきや発言が増え, 集団活動にスムーズに入れるようになってきた。 <自立活動の様子> ・不安の軽減と, 聞こうとする姿勢の醸成により, 聞き返しがほぼなくなり, 周りの友達の様子を見なくても行動することができるようになった。			
次計画へ反映	・他教科でも聞く力をさらに伸ばして聞きもらしを減らし, 能動的に活動できるようにする。 ・書字(板書)のスピードを上げる。 ・集中力を高めるトレーニングを行う。			

1 題材名 いい耳いい目で集中アップ

2 題材の個別目標

- ・指示を聞きながら個別のことばかけがなくても、課題に取り組むことができる。【心(3)、人(3)、環(4)】

3 指導計画 (14 時間扱い)

第1次「指令通りにやってみよう (点・線編)」 4 時間

第2次「指令通りにやってみよう (数字編)」 3 時間

第1時「数字を聞きいて書こう」

第2時「数字を考えながら書こう～1 たして～」(本時)

第3時「数字を考えながら書こう～1 ひいて～」

第3次「指令通りにやってみよう (ひらがな編)」 7 時間

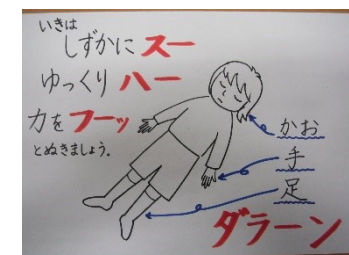
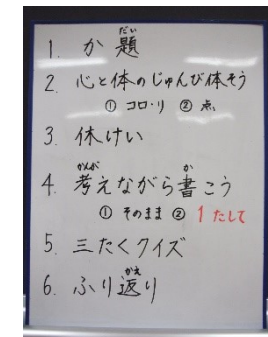
4 本時の個別目標

- ・数字を使った課題において、教師の指示を聞きながら活動することができる。【心(3)、人(3)】

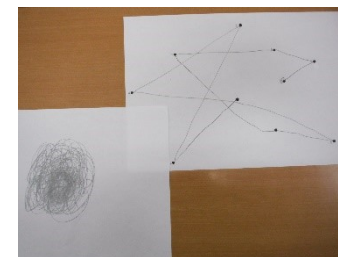
5 準備物・資料 B4 用紙、マス目ノート

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)
1 本時の課題を確認する。 数字を考えながら書こう ～1 たして～	・視線が合ったのを確認してから、「いい耳になってきたかな？」と小声で言葉をかけ、意識を向けて聞けるようになってきたことを称賛し、「しっかり聞くぞ」という意欲を高める。 ・本時も数字を使って学習を進めることと少しだけ難しくなることを伝え、驚きと期待感をもたせるとともに、見通しをもって活動できるよう活動の流れを提示する。 ・「さあ～今から、なにやるんだっけ？」といつもの導入の活動が想起できるよう言葉かけをする。 ・自分の手脚の動作に意識が向けられるよう、「心と体の準備体操」の動きのポイントを図で示す。
2 「心と体の準備体操」をする。(10 分間) (1)コロんでリラックス (2)番号打ち・点つなぎ	・2(1)の活動では、十分体の力が抜けていることを確認する。力が入っている場合には、呼吸を「1・2・3」の言葉かけに合わせて、深くゆっくり行うことや、「力を入れて…はい抜こう」等と言葉かけをする。 ・2(2)の活動では、指示通りに点に番号をふったり点を結んだりできるか、始めと終わりの合図を守れるか確認する。



【休憩タイム】 3 数字を書く。(10 分間) (1)聞きながらそのまま (20 個) (2)答え合わせ (3)聞いた数字に 1 をた して (10 個) (4)答え合わせ (5)聞いた数字に 1 をた して (20 個) (6)答え合わせ 4 三択クイズをする。 (15 分間) 5 本時の活動を振り返 る。 (1)振り返りを発表する。 (2)次時の活動を知る。	・2(2)の活動が終わってもまだ気持ちが落ち着かない場合には、もう一度 2(1)の活動を行う。児童の状態を見て時間を調節する。指示通りに取り組み、気持ちを自ら落ち着かせて学習に入ることができた際には大いに称賛する。 ・活動にスムーズに入れるよう、前時と同じ活動を入れる。 ・気分転換を図るために、深呼吸を促したり、頭や腕をクルクル回すことを促したりする。 ・次の活動で何をやるか、前時で行った活動が想起できるように数字カードを「ちらっと」見せて、「さあ～次はな～んだ?」と確認する。 ・ウォーミングアップで聞いた数字をそのままノートに書く慣れた活動を行うことで、抵抗なく取り組めるようにする。 ・「聞いた数字に 1 をたす」という条件が理解できているかどうか、具体例を挙げて確認する。理解できていない場合には、正答を示し、教師と一緒に数回練習を行い、自信と安心感につなげる。 ・声に出して答え合わせをして、正誤を確認することで、うまくいった点うまくいかなかった点に気付くようにする。 ・意欲と自信につなげるために、ちょっと難しくなることを伝えてから、読み上げる数字の個数を増やす。 ◎ 数字を使った課題において、指示を聞きながら活動している。(観察) ・「ちょっと苦手なのに一生懸命だね。」「だんだんスムーズになってきているね。」等、肯定的な言葉かけをすることで、次の活動の意欲につなげられる。 ・「さあ、今度はリラックスしてクイズ!」等楽しい雰囲気を作る。「いい耳でよく聞けているからきっと大丈夫。」等、学習を生かして、「集中して聞いて答える」ことを意識できるように言葉かけをする。 ・感想の形で、自由に発表するように促す。発言に共感するとともに、成長の見られた点について具体的に取り上げ、称賛する。 ・次時の活動について、学習への期待感が高まるように使用する教材を見せて説明する。
--	---



正しい姿勢の保持が難しいG男（小3：自閉症・情緒障害特別支援学級）

実態把握

【特別支援学級担任の見取り】

- a. 授業中、足を床に接地して5分以上着席できることは難しく、常に背筋が曲がっている。
- b. 場面を見て状況を理解する力や自分から考えて行動に移すことに弱さがみられる。
- c. 自分の好きなことには、集中できるがそれ以外のことには無気力・無関心な傾向がある。
- d. 聞いたこと（指示や伝言）を覚えて、行動に移すことは難しい。
- e. 活動への取りかかりが遅く、最後まで終わるのに大変時間がかかる。

【通常の学級の担任からの情報】

- f. 集中できる時間は短く、興味のないことには気持ちを向けることは難しい。
- g. 失敗や間違いを指摘されたり注意されたりすると前向きに受け入れられる。何が悪かったのか判断できるが、同じことを繰り返してしまう。
- h. 書くことを決めることに時間がかかり、作文は苦手である。

【保護者からの情報】

- i. 気が散りやすく、向かうべき活動になかなかとりかかれない。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	b,c,e,f,i	g	b,c,f	a,e,h	d

【3年後の姿】

- ・周囲の状況を見ながら、自分の取るべき態度や行うことを判断し、主体的に活動に参加することができる。

指導すべき課題

活動への意欲がもてないと無気力・無関心になってしまい、姿勢が崩れさらに離席をしてしまい集中できないことが多い。一方で、苦手なことでも学習課題をつかむことができると、課題を解決しようとする前向きな姿勢も見られる。そこで、集中できる状況（学習への構え）をつくれば、課題をつかむことができ、学習に参加できる場面が増えるだろうと考え、中心的課題とした。

長期目標

各教科の時間において、一定時間課題に取り組むことができる。

自立活動指導内容

項目リストアップ	心理的な安定	環境の把握	身体の動き
	(2)状況の理解と変化への対応 活動内容を理解して切り替える	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応 写真や合い言葉の提示いろいろな動きを模倣する	(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 背筋・横転・足支持立ち
指導内容	筋力・力の調整をしたり、写真の提示や言葉かけなどにより、正しい姿勢を保持する。		
	点つなぎ・漢字トレーニング（タブレット）、箸使いトレーニング等を行い、集中を持続する。		

短期目標 (自立活動)	正しい姿勢を保持して与えられた課題をノートに書くことができる。【環(2), 身(2)】	集中を持続させ, 3分間, 与えられた課題に取り組むことができる。【心(2)】	個別目標 (各教科等)	- 自分が読める文字で正しく視写できる。(国語・社会等) - 苦手な運動にも取り組める。(体育)
指導の手立て (自立活動)	- 姿勢を保持するための体幹トレーニング(背筋・横転・ワニ歩き・高ばい・体育すわり歩き・片足支持立ち)を行う。 - タオルを使って, 頭のせ歩き, おでこのせ歩き, 回す, タオル結びタオル結び, キャッチボール, ボールストップゲームを行う。 - 体の動きや姿勢が意識できるように, 写真や合い言葉を提示して, 自分でも点検できるようにしたり, 着席する時に背中と椅子の間にタオルを入れたりする。 - SST(場面理解・状況判断)	- 活動に見通しをもてるようにするために, 学習の課題や流れを提示したり, 視覚支援(動きを乗り物に例えたりイメージしやすいイラスト提示したりする)を取り入れ, 注視しやすいようにしたりする。 - スモールステップで課題提示をし, 集中を持続できるようにする。	指導の手立て (各教科等)	- 穴埋めのワークシートの作成し, 活動へスムーズにする。 - 視覚教材や図の活用をして, 課題の提示を工夫する。
指導の実践	(次ページ学習指導案参照)			指導の実践
評価	<通常の学級での様子> - 交流学級での授業においても, 正しい姿勢を維持できる時間が延びた。(10分程度 板書もノートに書けるようになっている。) - 指示に従って学習活動に参加できる機会が増えた。(いろいろな動きの入ったマット運動にも意欲的に取り組んでいる。) <自立活動の様子> - 号令がかかると, 「正しい姿勢」のセットができるようになった。 - 正しい姿勢で書けるようになった量・時間 30秒(6月) → 3分(11月) ・腹筋 0回(6月) → 2回(11月) - 足支持立ち(利き足) 3秒(6月) → 7秒(11月)			
次計画へ反映	学習への構えができれば, 課題に意識を向けたり意欲をもてたりすることができるようになってきたので, 1時間単位のゴールを明確にして, 参加できる時間を増やすことができるようにしていきたい。しかし, 集中の持続はまだ課題があるので, 学習の場の設定や時間配分については引き続き工夫していきたい。			

1 題材名 いろいろな動きにチャレンジ

2 題材の個別目標

- ・集中して学習に取り組むことができる。【心(1), 人(3)】
- ・いろいろな身体の動きをすることで、正しい姿勢を意識することができる。【身(1)(5)】
- ・場の設定や課題提示を工夫することで活動の切り替えができるようにする。【心(2), 環(2)】

3 指導計画（6時間扱い）

第1次「まねしてみよう」 3時間

第1時「バランスボールといすを使って」

第2時「いすと床を使って①」（本時）

第3時「机といすを使って②」

第2次「友達とやってみよう」 3時間

4 本時の個別目標

- ・使っている体の部分を確認しながら、手本の動きを模倣することができる。【身(1)(5)】

5 準備物・資料 活動内容カード、いす、マット

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価）
1 はじめのあいさつをする。	・元気よくしっかりとあいさつすることで、学習の始まりを意識づける。 ・気持ちよくあいさつができたなら称賛する。 ・姿勢や声の大きさに気を付けてあいさつができるように助言する。 ・天気や今日の出来事について簡単な会話ができるようにする。
2 本時の学習内容を確認する。	・提示ボードを使い、学習の予定を示すことで、見通しをもって安心して学習が進められるようにする。

3 「まねしてみよう」の学習をする。

(1)いすを使った（に座って）運動をする。

- ・いす支え
- ・いす脚のせ

(2)床を使った運動をする。

- ・床ひこうき
- ・横転
- ・高ばい
- ・体育すわり歩き
- ・ひざ立ち

(3)活動の振り返りをする。

- ・前時に楽しく運動できたことを想起し、A児が意欲的に活動できるようにする。
- ・いろいろな動きに取り組む活動を通して、筋力やバランス感覚を高めることができるようにし、生活の中でも生かしていけるようにする。

- ・A児が動きをイメージしやすいように、乗り物等の名前を使うようにする。
- ・体の使っている部分を確認めながら、体を動かしていくようにする。

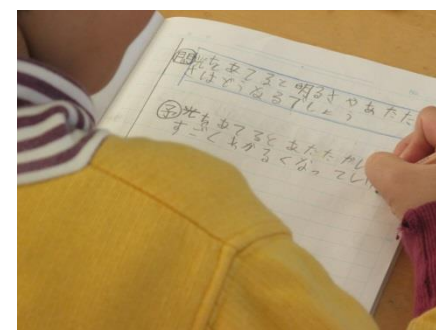
◎使っている体の部分を確認めながら、手本の動きを模倣している。（観察）

- ・集中して取り組めたことを称賛し、達成感を味わわせるようにする。
- ・姿勢や声の大きさに気を付けてあいさつができるように助言する。



【評 価（授業の様子）】

正しい姿勢を保持して、
板書を写している姿



参加することが難しいH男（小5：自閉症・情緒障害特別支援学級）

実態把握

【特別支援学級担任の見取り】

a. 素直な気持ちでないときには、返事をしなかったり大声で叫んだりする。時間を置いてから話を聞き、やりたいことを聞くと素直な行動がとれる。

b. 桁数の多いたし算やひき算、かけ算の計算や画数の多い漢字には自信がもてず、強い抵抗を示し、練習を嫌がる。

【保護者からの情報】

c. 宿題はなかなか取りかからず、自分から取りかかれない。ゲームをやり出すとなかなか終わらせることができない。

【通常の学級の担任からの情報】

d. 課題や活動等、自信をもってやれないことは離脱したりやらないことを選んだりする傾向にある。特に、体育や音楽の授業は苦手で、離脱することがある。

e. 興味のある学習には意欲的に取り組むが、長い時間集中して学習するのは困難である。

f. 指示された行動に対して抵抗感を示す。

g. 気持ちが高ぶると、大きな声を出したり友達にちょっかいを出したりして周りの目をひく行動が見られる。

h. リコーダーや鍵盤のハーモニカが苦手である。

i. 音感はやい。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	a,b,c,d,e,f,g	a,f	i	h	a,d

【4年後の姿】

・苦手なことに直面したときでも、自分の気持ちをコントロールしながら、前向きに活動に取り組むことができる。

指導すべき課題

本児にとって得意な課題や好きな課題には集中して取り組めるが、苦手な課題や自信のもてない課題に対しては拒否又は離脱してしまうことが、本児の成長に大きな影響を与えていると考える。一方で、部分的にでもできる分かることが手応えとして感じられると、スムーズに学習へ取り組むことができることから、スモールステップを踏めばできることが増えていくことも実感させる機会としていきたい。

長期目標

苦手な活動にも最後まで参加することができる。

自立活動指導内容

項目リストアップ

	心理的な安定	人間関係の形成	身体の動き
(1)情緒の安定 自己肯定感の向上 安定した情緒の下での授業参加	(3)自己の理解と行動の調整 自分の得意・不得意の理解 状況に応じた行動	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能 授業参加に必要な姿勢保持	
(2)状況の理解と変化への対応 適切な行動の習得	(4)集団参加の基礎 集団に参加するための手順やきまりの理解	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行 手指の巧緻性	

指導内容

姿勢保持・手指の巧緻性を高める。

指定された手順やきまりを守って行動する。
活動に集中できる時間を増やす。

短期目標 (自立活動)	姿勢や指先を意識しながら鍵盤ハーモニカの練習に取り組むことができる。【心(1)(2), 身(1)(5)】	心理的な安定を図りながら折り紙で花火を完成させることができる。【心(1)(2), 人(3)(4), 身(5)】	個別目標 (各教科等)	音楽の授業に参加し，クラスの友達と一緒に鍵盤ハーモニカの演奏ができる。(音楽)
指導の手立て (自立活動)	- 姿勢保持のための体幹トレーニング（バランス体操，片足支持立ち，ペットボトルふり，ピンポン玉手乗せ歩き）に取り組む。 - 手指の巧緻性を高めるトレーニングとして，親指でのプチプチつぶしに取り組む。 - 鍵盤ハーモニカの練習では，フレーズを区切ったり演奏速度を自分で調整したりする。 - スモールステップで課題を提示する。 - 学習課題や活動の流れを，視覚的教材を使って示す。 - 活動内容等について自己決定できる場面を設定し，安心して活動できるように配慮する。	- 制作する折り紙作品を自分で選ぶ - 折り紙作品を難易度別（星→笹→花火）に提示して，手順表を見ながら作品を完成できるようにする。 - 折り紙作品を難易度別に提示して，作品を完成できるようにする。 - 静と動のある活動を組み合わせて，活動のメリハリをつけるようにしたり評価の視覚化（花丸）をしたりすることで，集中して活動に取り組めるようにする。 - 提示された課題に取り組む - スモールステップで課題を提示する。	指導の手立て (各教科等)	[パート練習に取り組む。] - 課題曲を聞いて，曲全体の感じをつかむ。 - 小節ごとに区切って繰り返し練習を重ねていく。 - 速度をゆっくりにして練習し，メロディをそろえていくようにする。 [全体練習に取り組む。] - タイムタイマーで時間を示し，見通しをもって，最後まで課題に取り組めるようにする。 - 指揮者の動きに合わせて，効果的な演奏（強弱）目指し，集中できるようにする。
指導の実践	(次ページ学習指導案参照)			指導の実践
評価	<通常の学級での様子> - 音楽の授業 不参加・離脱 1学期 20回のうち 15回 2学期 18回のうち 0回 - 市内音楽会に参加することができた。(10月) <自立活動の様子> - 折る作業と切る作業の入った難易度の高い花火を作った。 - トレーニングの見取り 片足支持立ち 5秒（5月） → 10秒（11月） ティッシュふき 4秒（5月） → 10秒（11月） - 親指プチプチ 10秒 12個（5月） → 20個（11月）			
次計画へ反映	活動や物事に対して，漠然と「できる・できない」を決めつけてしまう傾向にあったが，「できないけど，できる部分もある」と柔軟な考え方ができるようになってきた。このことから，活動の見通しをもつことに重点をおいて，学習内容を把握できるようにし，本児が状況を見ながら，友達に合わせて行動することができる部分を増やしていけるようにしていきたい。			

1 題材名 集中してやろう

2 題材の個別目標

- ・集中して、活動に取り組むことができる。【心(1)】
- ・手本の動きを確認しながら、いろいろな動きに取り組むことができる。【身(5)】
- ・活動の切り替えをしながら、提示された課題に最後まで取り組むことができる。【心(2)、環(2)】

3 指導計画（10 時間扱い）

第1次「まねしてみよう」 6時間

第2次「チャレンジしてみよう」 4時間

第1時「体幹と指先のトレーニング・鍵盤ハーモニカの練習①」

第2時「体幹と指先のトレーニング・鍵盤ハーモニカの練習②」（本時）

第3時「体幹と指先のトレーニング・鍵盤ハーモニカの練習③」

第4時「体幹と指先のトレーニング・鍵盤ハーモニカの練習④」

4 本時の個別目標

- ・いろいろな体の動きをしながら、使っている体の部位を意識することができる。【身(5)】
- ・鍵盤ハーモニカの練習を活動内容にしたがって行うことができる。【心(2)、環(2)】

5 準備物・資料 学習提示カード、花丸カード、ペットボトル、ちり紙（風船）、気泡入り緩衝材、パソコン

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価）
1 はじめのあいさつをする。	・声を出してあいさつすることで、学習の始まりを意識づける。気持ちよくあいさつができたなら称賛する。 ・姿勢や声の大きさに気を付けてあいさつができるように助言する。 ・天気や今日の出来事について簡単な会話ができるようにする。
2 本時の学習内容を確認する。	・提示ボードを使い、学習の予定を示すことで、見通しをもって安心して学習が進められるようにする。
3 「チャレンジしてみよう」の学習をする。	・前時に上手く運動できた部分を具体的に伝え、B児が意欲的に活動できるよ



(1) 体を使ってトレーニングをする。 ① 体幹トレーニングをする。 ・いすにすわっての足保持体操 ・いすを逆さまにもって片足立ち体操 ・両手でペットボトルをもって上下ふり体操 ・ティッシュふき（風船ふくらまし） ② 手先のトレーニングをする。 ・親指を使ってプチプチつぶし ③ 活動の振り返りをする。 (2) 鍵盤ハーモニカで課題曲の練習をしよう」の学習をする。 ① 練習する部分（5小節）を聞いて、曲の感じをつかむ。 ② 演奏する部分の階名や弾く鍵盤を確認する。 ③ 演奏の速さをゆっくりにして練習する。 ④ もとの演奏の速さで練習した部分を演奏する。 ⑤ 活動の振り返りをする。 4 後片付けをして、次時の活動を知る。 5 終わりのあいさつをする。	うにする。 ・いろいろな動きに取り組む活動を通して、筋力をつけたり手先の動きをなめらかにしたりできるようにし、学習の中でも生かしていけるようにする。 ・B児が動きをイメージしやすいように、手本を見せたり体の使う部分を伝えたりするようにする。 ・集中して取り組めたことを称賛して視覚的に分かる評価して、達成感を味わわせるようにする。 ◎使っている体の部分を確認しながら、集中して体操に取り組んでいる。（観察） ・曲の感じをつかむために、曲そのものを聞いて意欲を高めるようにする。 ・階名とともに、指の動きも確認していき、指の動きと演奏する音を一致させることができるようにする。 ・曲をパソコンに取り込み、演奏の速さを調節できるようにして練習する。 ・始めは一緒に練習していき、慣れてきたら時間を設定して自分で練習できるようにする。 ・もとの速さでできた部分のみを褒めて励ます。 ◎鍵盤ハーモニカの練習を活動内容にしたがって行っている。（観察） ・楽しかった（うまくできた）活動と難しかった（うまくできなかった）活動を確認できるように促し、努力できていたことを伝え励まし、次時の意欲につなげていけるようにする。 ・活動で使った物を元の場所に戻して、片付けができるように声かけをして励ます。 ・本時にできたことを改めて伝え、次時の活動への意欲となるようにする。 ・姿勢や声の大きさに気を付けてあいさつができるように助言する。
--	---



授業に集中して取り組むことが難しいI男（中1：知的障害特別支援学級）

実態把握

【特別支援学級担任の見取り】

- a. 姿勢保持が難しく、5分～10分ぐらい過ぎると机にもたれかかることが多い。
- b. 同年代の友だちとの意思疎通は苦手でトラブルが起きるが、大人との関わりは良好である。

【交流学級担任からの情報】

- c. 学習課題を最後まで取り組むことは苦手であるが、人の手伝いや頼まれた仕事は意欲をもって行うことができる。
- d. 7分～10分程度なら集中して学習課題に向き合うことができる。

【保護者からの情報】

- e. じっとしていることが苦手で、常に体を動かしている。

【教科担当からの情報】

- f. 書字に苦手意識があり文字の形が整わない。
- g. 学習課題の内容によって、体調不良を訴え保健室へ行くことやトイレに行くなど授業の離脱が多い。

【WISC-III所見より】

- h. 言語理解、知覚統合、注意記憶が弱く、言葉の意味理解が困難であったり、注意の集中や持続が苦手であったりすることが考えられる。
- i. 視覚・空間認知が不得意である。
- j. 個人内差としては処理速度が高いことから、反応が速く、視覚的短期記憶や視覚的情報の記号化が得意である。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	g	b	a,e,f,i,j	a	b

【2年後の姿】

- ・授業時間内において、出歩くことなく課題に取り組むことができる。

指導すべき課題

課題に向き合う意欲の向上と課題を最後まで取り組むことを中心課題とした。そのためにも、内容を理解する力を高め「わかった」「できた」の経験を増やし、自信をつけることが重要である。

長期目標

特別支援学級での学習において、20分間集中して授業や課題に取り組むことができる。

自立活動指導内容

項目リストアップ	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 見通しをもたせ本人が安心して取り組める課題	(3)自己の理解と行動の調整 苦手な課題を最後まであきらめずに取り組む	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握 補助具を用いて姿勢感覚を維持する	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行 目と手の協調運動	(3)言語の形成と活用 話し言葉や書き言葉の意味を正しく理解する
指導内容	学習に向き合う意欲を高めるために、「分かった、できた」等の実感や達成感を味わえる難易度を設定した段階的学習活動を取り入れる。	言葉の正しい理解を図るため、見聞きしたことを思考する（記憶する、イメージする、比べる、選択する、表現する）活動を取り入れる。	集中力向上のため、安定した椅子座位姿勢を実感できるように座位教具を工夫する。 焦点を合わせる力及び注視力、追視力を高めるために、目と手の協調運動の課題を取り入れる。		

短期目標 (自立活動)	・「見ること、聞くこと、背筋」を意識して 10 分間集中して課題に取り組むことができる。【心(3), 人(3)】	・語句や文章の内容をイメージして、関係する読みや意味をマッチングさせることができる。【コ(3)】	・安定した姿勢を維持し、手指の活動に集中して取り組むことができる。【環(4), 身(5)】	短期目標 (各教科等)	・日常生活に必要な言葉についての正しく理解し、活用することができる。(国語) ・英文（一文）を英単語の読みから、おおよその内容レベルで発表することができる。(英語)
指導の手立て (自立活動)	・意欲的に課題に取り組み、学習内容の定着を図るために、授業の導入時の学習活動の固定化と視覚情報を活用した確認小テストを実施する。 ・通常の学級で学習している社会科の授業内容理解のために、教科書の読めない漢字にルビを振ったり、語句の意味調べを学習活動に取り入れたりして、交流学級での学習に見通しがもてるようにする。	・言葉や漢字の意味を正しく理解できるように、マッチングシートやマッチングカード、漢字練習プリントを活用した学習活動を取り入れる。	・座位教具としてテニスボール（半球）を活用し、安定した姿勢を保つ。 ・手指の巧緻性の向上や最後まで課題に取り組む意欲を高めるために、毎日 10 分間 3 ～ 4 枚の点つなぎや曲線つなぎの学習活動等を取り入れる。	指導の手立て (各教科等)	・導入では、言葉の意味を正しく理解できるようにするために、熟語の漢字と読み、言葉の意味のマッチングシートやマッチングカード、漢字練習プリントを用いる。(国語) ・英語では、学習内容を理解することができるようにするために、英文や単語とイラストを交えたカードの操作や簡単な英会話を取り入れる。(英語) ・学習の定着や既習学習の活用を図るために、既習内容や発展的な問題を取り入れた、生徒の実態に応じた小定期テストを実施する。
指導の実践	(次ページ学習指導案参照)			指導の実践	
評価	<通常の学級での様子> ・教科の授業で 20 分ぐらいは、私語や離席なしで集中して課題に取り組むことができるようになった。 ・授業中の姿勢が、背筋をピンと伸ばし足裏もしっかり床に付けた正しい姿勢となり、文字も「とめ、はね、はらい」を意識した整った文字が書けるようになった。 <自立活動の様子> ・体調不良を訴えることがあっても「頑張って取り組みます」と自ら話し、難しい課題に向き合うようになった。 ・毎時間の初めに、自立活動を行うことで、見通しをもって集中して授業に取り組むことができるようになった。 ・「答えはこれでいいんでしょう」等と「分かった、できた」の実感から、笑顔を見せながら回答の確認をする姿が多く見られるようになった。				
次計画へ反映	交流学級での学習内容を理解できるように、社会や理科の学習において視覚的な情報を取り入れた指導方法を工夫する。				